

H28年度 第2回高幡地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：2月14日（火）14:00～16:30

場所：須崎市総合保健福祉センター2階会議室

1 議事等

(1) 地域アクションプランについて

- 1) 高幡地域アクションプランの進捗状況等について
 - ・第3四半期の進捗状況等について説明
- 2) 平成29年度高幡地域アクションプラン（案）について
 - ・地域アクションプランの改定について説明
 - ・案について了承された

(2) 産業振興計画の改定等について

- 1) 第3期産業振興計画（Ver.2）の改定のポイントについて
 - ・改定のポイントについて説明
- 2) 平成29年度移住促進策のバージョンアップについて
 - ・移住促進策の取り組み状況及びバージョンアップについて説明
- 3) 志国高知 幕末維新博について
 - ・志国高知 幕末維新博について説明

2 意見交換

<地域アクションプランについて>

- ・(No.1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上) JA土佐くろしおは、28園芸年度の販売目標を105億円としていたが、天候不順によりミョウガの8月の生産量が前年から150tショートしたため、102億6,500万円ほどに留まった。29園芸年度は108億円、30園芸年度には110億円まで達成したいと考えている。
- ・(No.9 みどり市を核とした「地消地産」の推進) JA四万十では、「みどり市」の「手づくりキッチン」が非常に順調に推移しており、地域の食材を使った弁当や各種宴会への仕出し料理が好評である。産直部門は、普及センターの指導をいただいきながら栽培講習会の開催等に取り組んでいるが、高齢者や女性の生産者が多いこともあり、伸びが若干少ない。新たに中土佐町が道の駅で直販を行うので、お互いに相乗効果を出しながら、販売金額を上げていきたい。
- ・(No.27 久礼の浜屋敷整備事業) 7月オープンの道の駅と「うまいもん食わしちゃおプロジェクト」が連携し、より良い直販の形がとれていけることを非常に期待している。うまいもんを食わず、見てもらうという中で、新たに体験的な観光を組み込んでいければと考えている。
- ・SEAプロジェクトで道の駅が大きくクローズアップされれば、久礼全体が漁師町として膨らむという大きな可能性を感じている。
- ・出来が悪く捨てられているミカンなどを使った商品づくりなども進められており、須崎市商工会議所としてもそうした取り組みを応援したい。また、観光では、体験メニューの充実や観光協会としての旅行業の取得等に、これから着手するところで

ある。

- ・(No. 20 津野町森林・林業再生プロジェクト) 木材生産は目標を若干上回る実績を上げている。現在、林業関係の一番の問題点は、労働力不足である。
- ・(No. 19 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用) 人材育成に関しては、国、県はもとより、町の担い手育成事業を活用して行っている。28年度は、県の林業学校の卒業生を1名雇用したいと考えている。今後も、町内の人材育成を進め、Iターンや林業学校の卒業生を雇用しながら人の確保に努めていきたい。
- ・養殖以外の水産業は天候や水揚げ状況に左右され、いつ、どれだけ獲れるか分からないので計画が立てられない。アクションプランにより大きくとか良くなるという感じには、なかなかなりにくい。
→沿岸漁業については、アクションプランとしてやっていくのが難しいところだが、鮮度保持による販路拡大なども考えられるところである。池ノ浦や宇佐の統轄支所などとも協議を進め、取り組みができることがあればやっていきたい。

<産業振興計画の改定等について>

- ・高幡アクションプランの中で高幡地域の観光入込客が106%、107%に伸びたということだが、昨年度の東部博は何%の伸びがあったのか。「龍馬伝」以来、県全体の状況はどうか。
→東部博は、約1割程度のアップであった。県全体で見ると、「龍馬伝」に合わせて「土佐・龍馬であい博」を開催した平成22年の435万人が過去最高。その翌年は388万人となったが、その後、平成25年以降は400万人を超え、右肩上がり推移している。
- ・移住の取り組みと産業振興計画は、二つ合わせて一つの取り組みだと思う。一つの提案として、若い人に種まきをしておくことが、少し時間はかかるかもしれないが、これから非常に大事なことではないかと感じている。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp